

放課後の 子どもたちの居場所。

小学生の放課後の過ごし方。皆さんは子どもの頃どのような過ごし方をしましたか。日が暮れるまで友達と遊ぶ子どもたち。それを見守り、時には教育をする地域の大人たち。家ではお母さんやおばあちゃんが帰りを待っていてくれる。近年では、働き方の多様化や社会環境の変化に伴い、核家族化や共働き世帯が増え、子どもの放課後の過ごし方について悩む保護者も多くなりました。

これまで、町では学童保育・放課後子供教室・寺子屋学習塾など、さまざまな放課後事業を実施し、子どもたちの放課後の居場所づくりに取り組んできました。本年度から、これまで別々に運営してきた取り組みを『フレンズ』と名付け、ひとつの放課後プログラムとしてまとめました。単なる放課後の居場所ではなく、学習や交流など、子どもの成長の場としても活用できる環境をつくるためです。

この特集では、『フレンズ』での活動を紹介します。

ー見守り×交流×学習をひとつにー

その名は『フレンズ』

小学校入学と共にそびえ立つ

『小1の壁』

「小1の壁」という言葉をご存じでしょうか？主に共働き家庭などで、子どもを保育園から小学校に上げる際に、直面する社会的な問題を「小1の壁」といいます。

保育園では、ある程度遅い時間まで子どもを預かってもらえましたが、小学生になると、午後3時前後には授業が終わり、子どもたちは下校します。共働きのご家庭では放課後の時間を1人で過ごすことになり、保護者は安全面（1人の時間が増え、犯罪に巻き込まれてしまう危険）や精神面（宿題やおやつなどを自己管理する必要がある）など、心配事がつきまosen。また、子どもが小学生になると時短勤務制がなくなる企業も多く、子どもの入学を境に働き方の見直しを迫られる保護者も多いのが現状です。

『フレンズ』での主な活動プログラム



『増岡さんと遊ぶ』



『Let's play English』



『読み聞かせ』



『ビーチボールバレー』



『食育活動』



『にこにこタイム（体育遊び）』

☎ 学校教育課 教育企画係
☎ (78) 3274



(左から)
堀本さん（六栄小）、田成さん（清里小）、田中さん（腹赤小）、増村さん（長洲小）

Interview

子どもたちと地域をつなぐ 4人のコーディネーター

私たちコーディネーターの役割は、子どもたちと地域をつなぎ、子どもたちが楽しめるプログラムを考えることです。地域ボランティアの皆さんにご協力いただきながら、私たち自身も地域の大人の1人として子どもたちと関わっています。

フレンズとして活動するようになり、学童保育を中心に1、2年生の割合が増えました。参加人数も約2倍になり、これまで以上に賑やかな場になっています。

放課後の子どもたちは元気いっぱいです。フレンズでは、学校や家では経験できない体験や、子どもたちが夢中になれる遊びの場を提供しています。遊びの中でも、片付けは自分でするなど、子どもたちの自主性を大切にしています。

保護者の皆さんには、楽しく過ごしている子どもたちの姿をぜひ見ていただきたいです。また、家庭でも「今日どんなことしたの?」などの会話を大切にしてください。

地域ボランティアとして子どもたちと遊びませんか?

フレンズの活動にはボランティアの皆さんの協力が欠かせません。子どもたちにはたくさん体験をさせてあげたいと思っていますが、私たちだけでは、プログラムが偏ってしまいます。ボランティアに興味がある人は、ぜひ趣味や得意なことをお聞かせください。フレンズは自分の子や孫と遊ぶような感覚で参加できる場所です。皆さんのご協力をお待ちしています。

「フレンズ」での活動



保護者が仕事などにより昼間に家にいない家庭の子どもを、授業の終了後から午後7時まで、学校の空き教室や専用施設などを利用して、預かっています。遊びや生活の場として過ごすことができます。保護者の子育てを支援しています。

学童保育は、午後6時までの自治体が多いなか、町では午後7時まで預かることで、『小1の壁』の不安を解消しています。



放課後の空き教室や体育館などを活用し、地域のボランティアの皆さんが、子どもたちに多種多様な体験活動（スポーツ、文化）や季節の行事などを実施しています。子どもたちが地域の大人と交流するなかで心豊かで健やかに育まれる環境づくりに取り組んでいます。

また、各小学校に1人ずつコー



寺子屋学習塾では、教員免許を持つ講師が中心となって、無料で勉強のサポートを行っています。

ここでは、子どもたちの学力向上だけでなく、日頃から勉強する習慣を身につけてもらうことで、家庭での生活習慣にも良い影響を与えることを目指しています。



子どもたちを犯罪から守る見守りとしての役割はもちろんのこと、交流・学習を通して成長できる場所として『フレンズ』があります。

子どもたちを犯罪から守る見守りとしての役割はもちろんのこと、交流・学習を通して成長できる場所として『フレンズ』があります。

見守り×交流×学習

3つの活動をひとつに

【学童保育】

午後7時まで預けられ、『小1の壁』を解消

【放課後子供教室】

地域の大人との交流を通して、健やかな成長を

【寺子屋学習塾】

学力向上と学習習慣を身につける

ディネーターがいて、子どもたちの体験プログラムの企画や、地域ボランティアとの調整などを行っています。

ただの居場所で終わらない
子どもたちが成長できる場所

3つの取り組みを『フレンズ』としてひとつの居場所にすることで、参加する子どもたちも増えますが、見守る大人の数も増え、より安全安心な放課後の時間を過ごすことができます。

学童保育に参加していた子どもたちも放課後子供教室の体験プログラムや寺子屋学習塾に参加するようになり、活動も賑やかになりました。

本年度は、活動日数や時間を増やすとともに、プログラムの拡充も行いました。英語の先生が遊びを通して英語にふれあう時間をつくるなど、子どもたちの成長にもつながるプログラムが豊富に揃っています。